

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 1章 26-30節 (新約聖書100頁)

六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。

神様の恵み

一昨日の27日、日曜日から「アドベント（「待つ」という意味）」というクリスマス（救い主の誕生）を待ち望む季節となりました。その約束は突然でした。神様の救い、恵み、あわれみ（「愛」）はいつも突然、一方的な約束です。それに応えるのは信じるだけです。

その約束は人知れず、ナザレという村で、粗末な家に住む、地味な名前の娘マリアに告げられました。その容姿、性格、知性、家柄、生い立ちも、徳のある、敬虔な、立派かどころか何も書かれてません。信じるのに能力や資格は関係ありません。

ではどうして信じることができるのでしょうか。天使は「主があなたと共におられる」と告げます。神様の約束を信じ実現するのを待つあなたはひとりではない。主が共にいてあなたを守り、導いているから信じることができると告げているのです。

しかしマリアは天使の言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだとあります。マリアは不安で恐れています。信じることができなのです。信じるとは自分の力ではないのです。だから神様の約束を信じることもまた神様の恵みなのです。

(しばらく黙想しましょう)

この世の闇に光として来られた主よ、どうかわたしたちをあなたと共にともしびを照らし、平和をもたらすものとしてください。感染症が終息し、争いが止み、いのちあるものが互いに愛するようにしてください。今日からテストを控え学ぶもの、実力テスト、定期試験、また入学試験を受ける英和生の健康を守り、さらなる学びへとつなげてください。そして喜びと感謝のうちにクリスマスを迎えることができますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン